

令和3年12月定例会

1 蒲郡市教員組合がまとめた「蒲郡の教育白書 2021」について

(1) 子どもたちは今について

ア 子どもの心について

イ 子どもの生活について

(2) 学びの環境は今について

ア 学習について

イ 部活動について

ウ 保健室からについて

◆新実祥悟議員 おはようございます。議長の許可をいただきましたので、通告の順に一般質問をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

今回は大きい1問だけとさせていただきます。

大きい1番、蒲郡市教員組合がまとめた「蒲郡の教育白書 2021」についてお尋ねいたします。

(1) 子どもたちは今についての中で、アとして、子どもの心についてお尋ねいたします。

蒲郡の教育白書というのは、2年に一度、蒲郡市の教員組合で発行されているというように承知しております。つくり方としては、小学生、中学生、保護者の皆さん、教員の皆さんに対してアンケートを出して、それを取りまとめて、それに対して教員組合としての所見というものをつけて発表されているというように承知しているわけです。そういう中で、この設問については、その時々トピックをつけたり、あるいは継続的に注目している、注力しているといっていいいでしょうか。そういった設問も載せているという認識でいるわけですが、その中で、特に子供が肯定感を持っているかどうかについては、ずっと設問としてあって、それに対する回答を載せているわけです。いかに教員の皆さんがこのことに対して思いが強いのかということが分かる、そういった設問だと思っています。

そういう中で、今回も同じように同じ設問があるわけなのですが、教育白書の6ページ、大きい1番の2の子供の心の中の(4)に「あなたは自分のことが好きですか」という設問があります。それに対する回答では、小学生の自己肯定感を持っている子供が減っているようにうかがえるわけです。この原因として、新型コロナウイルス感染症が影響して、学びの習熟度に影響したのか。あるいは、それぞれが主役になれる活動ができなかったのでしょうか。どのように子供たちに肯定感を持たせようとしているか、教育委員会の御所見を伺います。お願いします。

◎壁谷幹朗教育長 以下、教育長が答弁させていただきます。

このコロナ禍におきまして、学習活動や行事等、子供たちは、随分と制約の多い中で学校生活を送っています。新型コロナウイルス感染症拡大を予防する観点から、どうしても声を出したり、密になったりする活動が十分にできずに、共に触れあう中で、学ぶ楽しさを十分に味わうことができずにいることも影響しているのではないかと思います。学校としては、そうした中で、現在できる活動を模索しながら、各校でそれぞれ工夫して教育活動を行っております。

以上でございます。

◆新実祥悟議員 何とか子供に肯定感を持たせられるような教育、活動を続けていただきたいなというように思います。

次に、8ページでお尋ねいたします。白書では2の(7)保護者と教員への設問です。「お子さんがいらいらしたとき、どのように解消していると思いますか」という問いです。回答の多くがスマートフォンなどの電子機器を利用するというのが多いですね。その中で「先生に相談する」という回答が少ないのですが、このことについてはどのように考えていますか。

◎壁谷幹朗教育長 子供たちがいらいらしたときにどのように解消しているのかについての問いに対して、例えば、「音楽を聴く」、「友だちと話す」、「ゲームをする」という回答が多く、これは2年前とほぼ同様の結果であります。設問にある「いらいら」しているときは、深刻な悩みを抱えている状況とは別だと考えています。「いらいら」しているときは、大人に相談して解決しようとするよりは、そのときの気分を落ち着ける別なことに集中するという行動に移すことで、自分で解決しようとしているのだと思います。

以上です。

◆新実祥悟議員 いらいらの捉え方が少し違うということなのですね。分かりました。

では、イとしまして、子供の生活についてお尋ねいたします。11ページ、白書では3の子供の生活、(6)保護者への設問です。「お子さんはパソコンやスマートフォン、タブレット端末などをどのように使っていますか」というもので、回答としましては、保護者は、電子機器を肯定的に受け入れているように見えます。教育委員会としてはどのように考えますか。現在、学校への持込みはどのようになっていますか。また、SNSでのいじめは認知できているかお尋ねいたします。

◎壁谷幹朗教育長 これからの時代というよりは、現段階においても、社会に出る前にパソコン等の電子機器を利用できる能力を身につけることは、必須となってきております。就職活動において、パソコンが利用できないことは大きなハンデを負うことになっているのが現状であります。そうした時代の中であって、電子機器を利用するスキルを若い時か

ら身につけることは大切なことだと考えております。しかし、その電子機器の使い方には注意が必要だと考えます。音楽を聴くとかゲームをする、映像を視聴するといった受け身的な利用だけで時間を費やしたり、SNS等のコミュニケーションツールの利用の仕方ですらトラブルを起こしたり、巻き込まれたりなど、取り返しのつかない事態に発展することもあります。保護者を含めた利用の仕方について学ぶ機会が必要だと考えております。学校では、道徳の時間ですとか総合的な学習の時間や保護者会等を利用して、スマートフォンなどの利用について学ぶ機会を設定しております。

生徒指導部会などで、スマートフォンの学校への持ち込みについて検討した結果、現段階では、特別な場合を除いては許可をしておりません。また、SNSによるいじめの認知についても、各校でアンテナを高くして子供たちの様子を見守っていますが、家庭に帰ってからのことなので、把握するのが難しい現状であります。問題が大きくなってから教師が知ることになるケースが多く、解決には時間を要することが多いです。保護者の協力なしでは、未然に防ぐことは難しいと考えております。

◆新実祥悟議員 スマホのいじめというのは、本当に分かりづらいというように思います。家庭で保護者がいかに子供と接しているかというところが、いじめの発見につながっていくというように思います。そうしたところで、少しでも学校側から保護者に連絡ですとか、お話をしていただくというのは大事なかなというように思います。これからもよろしくお願いたします。では、次の質問に移ります。

(2) 学びの環境は今についてです。

アとして、学習についてお尋ねいたします。白書の15ページ、大きい2番の2の

(1) 「1学級何人ぐらいの人数がよいと思いますか」という設問があります。これに対して、教員の96%は30人以下を望んでいます。現在の小中学校の実態はどのようになっているか、まずお尋ねいたします。

それから児童生徒、保護者で非常に少ない回答であります、多いほうがよいという回答もあります。これをどのように受け止めていますか。

それから、教育委員会として30人以下学級を目指しているかどうか。これについて併せてお尋ねいたします。

◎壁谷幹朗教育長 現在、全ての学年において35人以下学級を実現しているおかげで、小学校においては、約9割の学級が30人以下となっています。中学校においては、約6割の学級が30人以下となっています。児童・生徒・保護者の中で、31人以上を望む回答をした人たちは、「大勢の集団のほうが、多様な考えに触れる事ができ、切磋琢磨できる」ですとか、「少人数だと人間関係が固定化されやすい」とか、「行事の中には、大人数のほうが適しているものがある」と、大勢の集団によさを感じているのではないかと考えられます。

教育委員会としましては、まず国が小中学校全ての学年で35人以下学級を実施するまでは、教員数の確保等課題も多いため、現状の施策を維持していきたいと考えております。

以上でございます。

◆新実祥悟議員 35人以下学級は、市長の御尽力がありまして、市単で加配の教員をつけていただいているところでございます。国の動向というのを、やはり見ていただきながら、状況を確認しながら今後のことは検討していただきたいと思います。

それから、やはり子供の数が多いほうがいいという方は、多分普段から非常に少ないクラスに子供が通っている場合があるのかなというように思いまして、そうした生徒さん、あるいは保護者の方にとっては、もっと多いほうがいいのかという印象の回答なのかなと思っております。現在、教育委員会では、学校の再配置についての検討をされているところですので、こういった回答も精査していただきながら御配慮、お考えをまとめていただければというように思います。次に移ります。

17ページで、2の(6)「小学校の外国語活動(4年生)、外国語(6年生)に望むことは何ですか」という問いに対して、小学生、保護者、教員共々、外国人との触れ合いや使える英会話を求めているようです。そこでALT、英語専門教員の加配がこの中で求められています、現状はいかがでしょうか。

それから、英語を使った校外活動はどのようなことがありますか。お尋ねします。

◎壁谷幹朗教育長 英語の学習におきまして、小学生の段階から、できるだけネイティブな発音に触れさせる事が大切だと考えております。そうした意味におきまして、英語を専門としていない小学校現場において、ALTの増員ですとか、英語専科の教員の配置を望む声の大きいことは承知をしております。県の加配も十分でないため、配置には苦慮しているのが現状であります。

英語を使った校外学習の例といたしましては、例えば、修学旅行の機会に出会った外国人と英会話をする事を課題としている、そういった学校もあります。

以上です。

◆新実祥悟議員 校外学習のイメージとしてですけれども、私は学校の周りをALTの先生と一緒に回るだけでも、今まで自分が通っていた通学路ですとか、学校の周りの自分の地域の景色、この色合いが違って見えるのではないかなというように思うのです。もちろん、そのためにはALTの先生が必要なわけなのですが、今の教育長の回答によりますと、多分そういった余裕がないのかなというように思えるのです。ただ、座学で、教室でやっているだけでは、英語というのは身につくと思いません。まちへ出て、自分の本当に知っているまちを英語という脳に切り替えて見てみるという活動をする中で、英

語というのが身についていくのではないのかなというように思います。ここは、県の加配というところもあるかもしれませんが、市の単独でそうした先生を設置していくことの御検討をいただけないかなというように思います。これは市長さんにもお願いしておきます。次に移ります。

18 ページで、白書では2の(8)「プログラミング教育実施のための問題は何だと思えますか」という設問に対して、問題点の解決方法をどのようにとっていますか。また、電子機器の教育が主眼になってしまって、本来の教育がおろそかになってしまわないのかという心配を私は持っているのですが、その点についてはどのように考えていますか、お願いします。

◎壁谷幹朗教育長 2020年からの小学生でのプログラミング教育の必修化が注目を集めています。それ以前には既に2012年から新学習指導要領に基づき、中学校でのプログラムによる計測・制御が必修化されております。プログラミング教育が必要とされる背景の1つとして、第4次産業革命やグローバル化に対応する人材を育てることがあります。

プログラミング教育の目的は、プログラミングのスキルを身につけるだけでなく、小学校段階における論理的思考力や創造性、問題解決能力等の育成が目的とされております。プログラミングに必要なプログラミング言語を用いた記述方法は、時代により変化していくため、プログラミング言語などを覚えるのではなく、自分で考え、それを形にしていくプログラミング的思考力や行動力の育成が重要とされています。その時々に合わせて柔軟に対応できる、時代を超えて普遍的に求められる資質・能力を身につけることが最大の目的とされています。

プログラミング教育は、始まったばかりで指導の方法についても現在試行錯誤を繰り返しているところであります。情報教育推進部会において、ICT指導主事やICT支援員の研修会等で、指導力の向上を目指しております。

以上でございます。

◆新実祥悟議員 プログラミングというのは、プログラミングの勉強をするだけではないよということなのですね。論理的思考をつくるためということを目指しているというよりも、それが主眼だということなのではないでしょうか。少し今までと違う教育の在り方ということをお聞かせいただいたような気がしました。本当にこのやり方をすると、新たな、これまでにないような能力を持つ子供たちというのが生まれてくるような期待が持てました。これはうまく利用していただきたいと思います。お願いします。

この学習についての中には、高校入試についての設問もありましたが、こちらについては割愛させていただきます。

イとしまして、部活動についてお尋ねいたします。20ページです。

3の(3)「よりよい部活動にしていくためには、どのようなことが必要だと思いますか」という設問ですが、この回答では、教員の負担感が大変大きいように思えます。

(4)として、21ページですが、「部活動を指導していて困ることは何ですか」という回答も含めてですが、どのように解決していくのかお尋ねします。

また、地域部活動、スポーツでいきますと総合型地域スポーツクラブですとか、文化系の音楽ですとか、美術系の方はスポーツとは言いませんけど、そういったお話もあるわけなのですが、地域部活動への移行は、いつ頃をめどにしていますか。また、部活動はどのようなものを想定していますか。併せてお尋ねいたします。

◎壁谷幹朗教育長 部活動につきましては、教員の負担感を少しでも減らすことができるように、前回策定しました部活動の指針の見直しを検討しております。参加する大会、平日・休日の部活動の時間等を見直しております。また、土日の練習におきましては、教員の仕事から切り離して外部指導者による活動ができるように検討を始めております。

国は令和5年度から、休日の部活動の段階的な地域移行を図る方針を示しております。市といたしましても、令和5年度の秋頃にはモデル部活動を指定して、試行をしながら問題点を洗い出し、なるべく早い段階から、土日の練習の一部については外部指導者による活動ができる体制を整えていきたいと考えております。

以上でございます。

◆新実祥悟議員 外部指導者はやりたい方がたくさんいらっしゃるというように私も伺っております。うまくそういった方にやっていただいて、移行していただければというように思います。

では、ウとして、保健室からについてお尋ねします。

白書では22ページ、4の(1)「支援員を要請する際、どのような場合に必要性を感じて要請していますか」という設問です。回答はいろいろあるわけですが、私が少し心配していることも含めてですが、保健室登校をしている子供がいるというように聞いております。養護教諭は子供の相談窓口になっていると思うのですが、それでよろしいでしょうか。

それから、2名の養護教諭の支援員の勤務実態はどのようになっているか。そして、この設問の最後にコメントがあるわけなのですが、養護教諭支援員の増員の配置時間の増加ですとか、増員が求められておりますが、この点についてはいかがお考えですか、お願いします。

◎壁谷幹朗教育長 現在、不登校気味の児童・生徒の中には保健室登校をしている子もいます。そのような児童・生徒についての相談窓口は、養護教諭が担当することが多いで

す。全職員で共通理解を図りながら、対応については各校の実情に合わせて行われております。

養護教諭支援員につきましては、蒲郡中学校と形原北小学校に各1名ずつ、合わせて2名を配置しております。1人、月90時間の勤務となっています。配置されていない学校においても、養護教諭が例えば、宿泊を伴う行事等で不在の場合や健診等で人手がいる場合については、派遣要請をかけて対応することができるようになっております。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の関係で修学旅行等延期した学校で、修学旅行の日程が重なり、どうしても派遣できなくて、1日中、養護教諭が不在となってしまっている現状はあります。子供の安心・安全を考えると養護教諭の複数配置・支援員の増員が必要だと考えます。県には、引き続き養護教諭の複数配置を要望していくとともに、東三河唯一の市独自の養護教諭支援員制度のさらなる充実を今後図ってまいりたいと思っております。

以上でございます。

◆新実祥悟議員 市の単独予算の中で、教育に関連するお金をつけていただいているということで、2点伺いました。1つは、教員の加配で35人以下学級をやっていること。もう1点が、今の養護教諭の支援員2名を市の単独でつけていただいているということ。そういったことで、非常に自慢できるような話ではないかと思っておりますが、それでもまだまだ足りない部分があると、現実にはそういったところがありますので、市長には大変申し訳ないのですが、加配のほうも考えていただいて、学校がうまく運営して回っていけるように、それはあくまでも子供たちのためにですので、やっていただければありがたいなというように思います。

以上、お願いと質問をさせていただいて、私の一般質問とさせていただきます。ありがとうございます。